

2019年1月28日発行

特定非営利活動法人 島根有機農業協会 広報紙

爽やかな風

[第1号]



フクジュソウ（花ことば：幸せを招く・永久の幸福）

墨画画家 小玉茂右衛門 作【出雲市在住】

はじめに

新年あけましておめでとうございます

2019年は新しい元号が始まる年となります。皆様方にとって良い年となりますようお願いしております。

昨年の当協会の理事会において理事長に選任されました。前理事長の福原圧史ほど有機農業の実践経験はありませんが、島根県の有機農業の推進に邁進してまいりますのでよろしくお願い申し上げます。

このたび長年の懸案でありました広報紙を当面は不定期ではありますが発刊することにいたしました。つきましてはこの機会を借りて、理事長就任に当たっての所信を述べさせていただきます。

当会は2007年3月1日にNPO法人の認可を受けスタートし、その後、2008年9月3日に国から有機JAS認証団体の認定を受け、今日まで10年余り活動を続けてまいりました。この間、生産者の方をはじめ多くの諸機関のご支援ご協力を賜り、有機JAS認証件数も徐々に増加し、また、県や市町村からの委託による有機農業の普及啓発活動等にも取り組んできました。

近年、地球環境は大きな変動を繰り返し、日本においても大きな気象災害が各地で頻繁に起こり、そのたびに多くの尊い人命が失われるとともに甚大な被害が発生しております。

2015年に「国連気候変動枠組条約締約国会議(通称COP)」で合意された「パリ協定」を多くの国・地域が批准したことで世界の潮流が大きく変わり始めているように思います。

また、国連加盟の193か国が2016年から2030年の15年間で達成するために掲げた「持続可能な開発目標(Sustainable Development Goals: SDGs)」には17の個別目標が設定されており、その中の15番目に「陸の豊かさを守ろう」という目標が設定されております。その主な内容は『陸上生態系の保護、回復および持続可能な利用の推進、森林の持続可能な管理、砂漠化への対処、土地劣化の阻止および、逆転ならびに生物多様性損失の阻止を図る』となっています。

当協会が使命としている有機農業の推進は、まさにこの15番目の目標の達成に大きく寄与するものと、協会関係者一同日々信念をもって活動しております。

2020年開催予定の東京オリンピック・パラリンピックに係る食材の調達においては、基本的にオーガニック食材で賄う方向で取り組まれていると伺っております。

島根県は全国に先駆けて県立農林大学校に「有機農業専攻コース」を設置し、有機農業の後継者育成に取り組むなど「有機農業の推進」を県の施策として掲げている自治体であり、その取り組みは県内外からも注目されております。

しかし、現在国内で展開されている農法を有機農業へ転換していくことはそんなに簡単なものではなく、また無理矢理に転換することが決してベストであるとは考えておりません。

約100年前の日本の農業は全ていわゆる有機農業であったわけですが、今日その割合は耕地面積の僅か0.5%程度(H22)と言われております。100年かけて壊れてきたものを立て直すには同等以上の年月がかかるのではないかと思います。そのスピードを少しでも加速化する努力は全ての国民が意識を持って取り組んでいかなければ、前述したSDGsの15番目の目標達成も難しいのではないのでしょうか。この機会に有機農業の実践者や今後取り組もうと考えておられる方、また有機農産物を意識して購入されている方だけでなく、国民一人ひとりが今一度「有機農業」に関心を示し、有機農業について学び、一人ひとり何ができるかを考えることが大切だと思います。

当協会も限られた体制の中ではありますが、引き続き有機農業の推進の一助となりますよう微力ながら努力してまいりますので、今後ともご指導ご鞭撻を賜りますようお願いいたします。

NPO法人 島根有機農業協会

理事長 松 本 公 一

＊＊10 年を振り返って

事務局長 柳楽咲和江

会員の皆様には失礼ばかりしております。今年もよろしくお願い致します。

有機 JAS 認証機関として当協会がスタートしたのは平成 20 年 9 月のことでした。本年度で 10 年たったことになります。この 10 年いろいろなことがあったなと思い出しているところです。

ご存知の方もおられるかと思いますが、当協会に正式に勤務する前、私は小学校で先生として働いていました。島根有機農業協会が立ち上がったころ、出産の為、仕事をセーブしていた私は、諸事情により、当協会の事務局長をしていた父から手伝いを頼まれたのが、この仕事へ関わるきっかけとなったのです。（そこから、協会の職員として働くようになったいきさつは、話が長くなるので、皆さんとお会いしたときにでも興味のある方は聞いてくださいね。）島根有機農業協会の職員となったということは、転職したということです。先生の仕事が嫌になったわけではない上、結婚 3 年目、当時 2 歳と 1 歳の子供を抱える私は『嫁』『母親』『職員』どれも新人さんです。当時は不安しかありませんでした。（すみませんここは正直に書かせてもらいます。）先生の仕事も 8 年かけてようやく自分の中で方向性が見えてきたのに、この状態で新しいことへの挑戦はかなり頭を抱えました。

協会の仕事は大きく分けて 2 つ、『有機農業の普及活動』と『有機 JAS 認証業務』です。有機農業の普及活動は単なる技術の普及だけでなく、環境問題、食育、医療、生き方など幅が広く、自分が思っていた価値観を見つめ直し、内容を把握することが必要です。自分が納得していないことは、なかなか伝えられないもので、自分の世界があまりにも狭かったことを思い知らされました。有機 JAS 認証機関としての事務局の仕事は、農業と名はつくけれど、土に触れることや自然と触れることは殆どなく、書類や活字に触れるばかりです。お恥ずかしい話、農業用語に触れる機会もなかったのも、話を聞きながら『？マーク』を頭に浮かべ、有機 JAS 認証業務は JAS 法という法律の中に組み込まれた制度のため、行政用語もなかなか理解できず只々時間だけが過ぎていく日もありました。そして、事務局の経営について考えることも頭を悩ませました。先生をしていたときには仕事の内容だけを考えればよかったのですが、ついてまわるお金のことがこれほどまでに大変だとは思ってもよらなかったです。

この他にも職員の家族が病気になり介護に専念しなくてははいけなくなったときがあり、私自身も 2017 年 3 月より病気の為一年近く休職しながらの勤務を送ったりした時期がありました。少ない人数での業務運営の為、皆様にはご心配やご迷惑をおかけしたと思っております。皆様の支えもあり、今でも何とかやっております。この場を借りて感謝申し上げます。思うようにいかないことだらけで、戸惑うこともあります。有機農業に関する仕事に就いたことは決して無駄ではなく、生きていく上での大切なことを教わった 10 年だったように思います。

まだまだ課題は山積みであり、たくさんの情報の中で有機農業の考え方を「伝えること」、「選んでいただくこと」はとても難しいことです。有機農業の取り組みはなんだか時代の流れとは反対方向に進んでいたように思うのですが、少しずつですが時代の流れがこちらにもきているようです。そして、その流れが、多くの人が平和になるような方向であってほしいと思います。

最後に事務局長へ就任の連絡も遅くなり誠に申し訳ございませんでした。また、機関紙の発行や賛助会員様への事業報告なども滞っております。今回の発行にあわせ送付いたしますのでご確認ください。

今後ともよろしくお願い申し上げます。